

科目名 (英)	Basic Hair Design I (Basic Hair Design I)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	中村/木本/貞包
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時間	水曜1,2 水曜3,4 木曜1,2 木曜3,4
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師を経て、TV、舞台、サロン、ブライダルなどのヘアメイクに携わり、実際に現場で働く講師よりトレンドを学びながら基礎の土台を固める。ウィッグを用いてはじめての技術を練習した後、相モデルにてその技術を披露し似合わせの能力を養い、プロフェッショナルの技術を身に付ける為の基礎技術と理論を修得する。							
【授業を通じての到達目標】							
ベーシックなスタイルからトレンドのスタイルまで幅広く基礎技術を身に付け、サロンスタイルや現場実習に対応出来る似合わせの力を修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ヘア教材一式							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	道具の名前や頭の名称などの専門用語を学び、セッティングをしてブロッキング・スライス・一束結びを実践し、ウィッグに慣れる						
2	【ピンニング】アメピンの特性を理解する。13パネルのスライスを取り、オンベースでねじり、オンベースでピンニングをする。毛先をネジピンやオニピンでとめる。Uピンの特性を学ぶ						
3	【スタイル①ハーファアップ】流行りの小技テクニックを修得してハーファアップを完成させる						
4	【スタイル②編み下し】表編み込み、裏編み込みを用いて編み下しスタイルを完成させる						小テスト10点
5	【コテ巻き】理論を学び、フォワード巻き、リバース巻きの基礎の巻き方を修得する。						
6	【コテ巻き(相モデル)】はじめての相モデルでコテ巻きをし、髪長さ・量・質の違いに触れて人頭に慣れる。コテの太さを変えて、似合わせの基礎巻きに挑戦する						小テスト10点
7	【コテバリエーション巻き(相モデル)】モデルに似合わせのダウンスタイルを施し、プレゼンをする						中間テスト
8	【ストレートアイロンバリエーション】ストレートアイロンの特性やCカール、波ウェーブの技術を学び、クォーターアップを完成させる						
9	【逆毛・ボンパドール】逆毛の理論を学び、逆毛タワー・片面逆毛・ボンパドールの技術を修得する						
10	【スタイル③下目アップ】スタイリング剤の種類と使い方について学び、くずし方、引き出し方を修得して下目アップスタイルを完成させる						
11	【スタイル④高めアップ・おくれ毛】スタイルの構成を展開図にて理解をし、スタイリング剤を用いて、おくれ毛有のゆるふわ高めアップスタイルを完成させる						
12	【スタイル⑤サイドアップ】スタイルの構成を展開図にて理解をし、スタイリング剤を用いて、サイドアップスタイルを完成させる						
13	【ホットカーラー】ホットカーラーの巻き方と構成を学び、全頭巻けるようになる						
14	【スタイル⑥下目アップ】ホットカーラーを用いて、下目アップスタイルを完成させる						
15	制限時間内に全頭ホットカーラーを巻き終える						定期テスト60点
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	Basic Hair Design II (Basic Hair Design II)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	大井/木本/貞包/永井/中村
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
				曜日・時間	木曜1,2 木曜3,4 金曜1,2 金曜3,4		
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師を経て、TV、舞台、サロン、ブライダルなどのヘアメイクに携わり、実際に現場で働く講師よりトレンドを学びながら基礎の土台を固める。ウィッグを用いてはじめての技術を練習した後、相モデルにてその技術を披露し似合わせの能力を養い、プロフェッショナルの技術を身に付ける為の基礎技術と理論を修得する。							
【授業を通じての到達目標】							
ベーシックなスタイルからトレンドのスタイルまで幅広く基礎技術を身に付け、サロンスタイルや現場実習に対応出来る似合わせの力を修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ヘア教材一式							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	【ピンニング】アメピンの特性を理解する。13パネルのスライスの取り方、オンベースのねじり方、オンベースでのピンニング方法を学ぶ						
2	【ピンニング】パネル数を減らしてセクションを大きくし、全7パネルのスライスを取りそれぞれオンベースにねじり、オンベースでピンニングをする					小テスト10点	
3	【ストレートアイロン・三つ編み・編み込み】ストレートアイロンの特性と、表編み、裏編みの構成を修得する						
4	【スタイル①編み込みアップ】構成を理解し、編み込みアップを完成させる						
5	【コテ巻き】25mm、32mmのコテで基礎巻きをし、ヘア剤でスタイリングをする						
6	【コテバリエーション巻きハーフアップ】ツイスト巻きやゆる巻き等、ニュアンス仕上げのダウンスタイルを修得する						
7	【スタイル作り①】今まで修得した技術を駆使してオリジナルのヘアスタイルを作り上げる					中間テスト20点	
8	【ストレートアイロン(相モデル)】Cカール、波ウェーブの技術を用いて、似合わせのクォーターアップを完成させる						
9	【逆毛】高さを出す逆毛と、大きく広げてボリュームを出す逆毛を立てられるようになる						
10	【ゆるふわバリエーション】くずし方、引出し方、仕込み方、構成を学びゆるふわアップスタイルを作る						
11	【スタイル作り②(相モデル)】展開図を作成し、モデルに似合わせヘアスタイルを提供する						
12	【スタイル作り③(相モデル)】展開図を作成し、モデルに似合わせヘアスタイルを提供する					小テスト10点	
13	【ホットカーラー】ホットカーラーの巻き方と構成を理解し、全頭巻き、ダウンスタイルを完成させる						
14	【スタイル⑥下目アップ】ホットカーラーを用いて、下目アップスタイルを完成させる						
15	制限時間内にホットカーラーを用いて、下目アップスタイルを完成させる					定期テスト60点	
【特記事項】				【評価について】			
9/8～13 スチール撮影				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	Basic Make Design II (Basic Make Design II)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	今井/鈴木 堤/久保
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
				曜日・時間	木曜1,2 木曜3,4		
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>実際に現場で働いているヘアメイクアーティストからメイクの知識、技術を学ぶ。色、形、質感、ツール、ブラシワーク等、メイクを施すにあたり、必要な専門知識を基礎から知ることによって様々なデザインを円滑に美しく施術することができるポイントを習得。</p> <p>実技を通して体全体の動かし方、道具の使い方も並行して身につけることができ、メイクに必要な知識の理解度も同時に高めていく。色形質感の効果を理解(知識)モデルさんに合わせて似合うメイクを提案、施術することができる(技術)</p>							
【授業を通じての到達目標】							
メイクにおける基礎の知識、技術の習得から似合わせまでの応用を習得。様々なメイクのバリエーションを知り、施術可能なデザインの幅を広げる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
teamsコマシラバスに記載							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	色の知識と基礎技術を習得						
2	色の知識と基礎技術を習得						
3	色の知識と基礎技術を習得					10	
4	形の知識と基礎技術を習得						
5	形の知識と基礎技術を習得						
6	中間テスト練習 色 形を活かした技術を習得						
7	中間テスト 色 形の理解度、技術のレベルを確認					20	
8	質感の知識と基礎技術を習得						
9	質感の知識と基礎技術を習得						
10	質感の知識と基礎技術を習得						
11	JESC検定メイクタイムトライアル(30分)仕上がり時間を意識できるようになる					10	
12	色 形 質感の組み合わせ方を習得						
13	色 形 質感の組み合わせ方を習得						
14	定期テスト練習 色 形 質感の組み合わせ 似合わせを習得						
15	定期テスト 似合わせの理解度、技術のレベルを確認					60	
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	Basic Make Design I (Basic Make Design I)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	大瀬/永井
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時間	水曜1,2 水曜3,4 金曜1,2 金曜3,4
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>外資系化粧品ブランドのメイクアップアーティストを経て、バックステージやMV、CM等のヘアメイクに携わる。メイクの基本的な理論を理解し、フルメイクを行うための基本的な基礎技術を学ぶ。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>JESC検定合格を目指し、メイクを行うための衛生や基本の理論・技術を習得する。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
Basic Make Up、メイク道具一式							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	授業内容の確認と教材確認、テーブルセッティングとスキンケア手順を実践し習得する						
2	スキンケア手順の復習と、ベースメイクの手順や技術を学び習得する						
3	スキンケア手順からベースメイクの復習と、アイブロウのプロポーションを理解し技術を学ぶ						
4	スキンケアからベースメイク、アイブロウを復習し一連の手順を習得する						小テスト 10点
5	スキンケアからベースメイク、アイブロウを復習しアイメイクの技術を学ぶ						
6	スキンケアからベースメイク、アイブロウ、アイメイクまでの一連の手順を習得する						
7	スキンケアからアイメイクまでの手順と技術 中間テスト						中間テスト 20点
8	ハイライト、シェーディング、チーク、リップの技術を学びフルメイクが出来るようになる						
9	タイムトライアル フルメイク 45分 時間内にフルメイクができるようになる						
10	タイムトライアル フルメイク 40分、35分 時間内にフルメイクができるようになる						
11	JESC検定 模擬試験 フルメイク30分 検定と同じ規定で実践する						小テスト 10点
12	スキンケアの知識を深めマッサージのテクニックを習得する						
13	クレンジングの種類を知り、クレンジングの手法を学ぶ						
14	定期テスト課題の練習をし、技術の向上と習得する						
15	定期テスト課題を時間内に完成させる						定期テスト 60点
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	アシスタントプログラム (Assistant program)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ピーサイド佐藤
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
ヘアメイクアシスタントとしての知識・スキルを学ぶ。 ・ヘアメイク業界の仕組み ・ヘアメイクアシスタントとして現場で役に立つためのスキル ・ヘアメイクが関わる媒体の知識 ・就職活動のサポート							
【授業を通じての到達目標】							
ヘアメイクアシスタントとして現場で臨機応変に動けるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業 資料配布							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	自己紹介						
2	業界理解 ヘアメイクについて						
3	道具見せ・お直しバッグ中身説明						
4	ヘルプについて・デモンストレーション						
5	現場でのネイル・ハンドマッサージについて						
6	広告業界について						
7	現場実習について						
8	音楽業界について						
9	業界用語について						
10	テレビ業界について						
11	映画・ドラマ業界について						
12	芸能界について						
13	作品撮影について						
14	振り返り・就職活動について						
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道 I (Professional seminar I)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	及川・今井・吉田
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	水曜2、水曜3、金曜2、金曜3
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
ヘアメイク業界の理解を深め、社会人として必要な教養・マナーを学び、現場実習に活かすことが出来る 主たる講師:美容院に美容師として勤務後、本校ヘアメイク科担任として従事している(及川)							
【授業を通じての到達目標】							
美容のプロになるために必要な業界知識や流れを理解し、ヘアメイクの分野に合わせたビジョンを組み立てることが出来る 目指すヘアメイク分野の業界を知り、方向性を見出し、自主的に行動できるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業時にteams共有				毎授業時にteams共有			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	教務部長挨拶・入学式を終えて振り返りと目標設定・講話受講のマナーについて・ITリテラシーテスト(入学式を終えた後の振り返りから、一人ひとり新たな決意の確認をする。また、クラス内でシェア・発表を行い、お互いを認め合うことを学ぶ)						
2	ヘアメイクの仕事・業界を知る①(ヘアメイク分野の業種について学び、調べ、発表し、業界についての理解を深める)						5点
3	サポートアンケートの実施・トラブル回避講習(今後起こり得るトラブルについて学び、考える)						
4	美容業界について知る(美容分野の業種を調べ、業界についての理解を深める)						5点
5	自己理解・他者理解を深める(思考ゲームを通して他人の考え・価値観の違いを学ぶ)						
6	担任面談(指定期日に担任との面談を行い、個人目標を明確にする)						
7	中間テスト(美容業界・ヘアメイク業界についての知識をアウトプットし、より理解を深め、復習が出来る)美容業界について知る(美容分野の業種を調べ、業界についての理解を深める) チーム実習グループ決め						20点
8	担任面談(指定期日に担任との面談を行い、個人目標を明確にする) JESCメイク検定筆記対策①						
9	グループ実習(グループ作品作りのデザインをチーム全員で思案し、コンセプトシートに記入できる)						
10	JESCメイク検定筆記対策② 現場実習・就職活動に対応できる「大人の言い回し」を学ぶ						
11	JESCメイク検定筆記対策③ 現場実習について						
12	自分の「好き」について知る・調べる・作る(デザインの分布を学び、理解する)						
13	自分の「好き」についてプレゼンする(デバイスを使用し、効果的に発表する)						10点
14	1～13回目授業の振り返り授業(全授業の振り返りを行い、復習をする)						
15	定期テスト(60点満点)・後期に向けて(前期の振り返りをし、自分の成長について考える)						60点
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	現場トレーニング I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今井布弥
学科	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	月
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
多方面で活躍するヘアメイクアーティストから、実際にブランド、舞台等の仕事でも活用することができるフェイスチャート(メイク)とイラスト(ヘアー)の描き方を基礎から教わることで、様々なデザインを第三者に向けて、より明確に伝えるための選択肢が増える。学校行事においてもスチール撮影、コンテストにて作品のイメージ考察時、発表時に活用することができるイラスト技術、ネイル技術、ブロー技術、着付け技術を習得する							
【授業を通じての到達目標】							
ヘアメイクアーティスト・ヘアメイクアシスタントに必要な知識・技術を習得する ヘアメイク現場の実践イメージを掴むことができる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業時にteams共有				毎授業時にteams共有			
回	科目	授業概要				テスト 配点	
1	ブロー演習	ウィッグでのブロー・ドライヤーの当て方 ブラシの使い分け・メンズドライの習得					
2		相モデルで実践ブローでスタイルを作る事を習得					
3		シャンプーのお濡らしから手の動かし方まで習得					
4		シャンプーからブロー、フィニッシュワークまでの流れを習得					
5	作品 撮影	デモンストレーションから作品撮影のポイントを理解する					
6		グループ撮影を実践し、1つの作品を仕上げることが出来る					
7		撮影作品のフィードバックを受け、多角的なポイントの見方を習得する					
8	ネイル演習	ネイルの技術形態を理解する ネイルケアの用具用材と使用目的を理解する カラー別カラーリング方法を理解する					
9		ウッズスティックを2種類にカスタマイズして用途を覚える コットンスティックが用途に合わせた大きさで作成することができる					
10		手指消毒の方法を覚え実践できる 対面でのファイリング～カラーリングまでの手順と ブラシワークを修得する					
11		テーブル無し(立膝)での実践方法を修得する テスト:皮膚に付着がなくカラーリングができる					
12	着付け演習	着物の道具について学び、使用道具を覚えることができる					
13		着付けのポイントを理解することができる					
14		ポイントを理解し、着付けを実践することができる					
15		浴衣を制限時間内に着付けることができる					
【評価について】							
●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施							
●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)							
●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。							

科目名 (英)	メイク技術理論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	宮崎 登志枝
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期 集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>日本大学芸術学部卒業。映画、ブライダルのヘアメイクアーティストを経て、ベルエポック美容専門学校入職。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>メイクアップにおける技術理論を理解し、JESCメイク検定に合格できるレベルに達する。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
テキスト							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	【授業単元】 身だしなみ、道具、立ち位置、ベースメイクにおける理論						
2	【到達目標】 テキストにそって、身だしなみ、道具名称、用途、ベースメイクにおける技術理論を練習問題を解きながら習得する						
3							
4							
5	【授業単元】 ポイントメイクにおける理論、皮膚構造、顔面骨格の知識						
6	【到達目標】 テキストにそって、ポイントメイクにおける技術理論や皮膚構造、顔面骨格の基礎知識を練習問題を解きながら習得する						
7							
8							
9	【授業単元】 JESCメイク検定を受験する						
10	【到達目標】 評価を受け習得度を確認する						
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施</p> <p>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	オリエンテーション・導入教育 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今井 及川 吉田
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
学年全体の学習イメージをつけることができる							
【授業を通じての到達目標】							
年間のスケジュールが理解できる 授業概要が理解できる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
プリント配布							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	【授業単元】 スケジュール・ルール確認・職員紹介・講師紹介						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9	【到達目標】 年間のスケジュール管理ができるようになる 学則・内規等のルールを理解し、遵守の意識を持つ 学科職員や学校組織の構成を知る 学校の校舎や教室の使い方を理解する						
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	デザインイラスト演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今井布弥
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>多方面で活躍するヘアメイクアーティストから、実際にブランド、舞台等の仕事でも活用することができるフェイスチャート(メイク)とイラスト(ヘア)の描き方を基礎から教わることで、様々なデザインを第三者に向けて、より明確に伝えるための選択肢が増える。学校行事においてもスチール撮影、コンテストにて作品のイメージ考察時、発表時に活用することができるイラスト技術、ネイル技術、フロー技術、着付け技術を習得する</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンで静物画がかけられるようになる ・トレンドのヘアスタイルが理解できる 							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業時に配布							
回	授業概要						テスト配点
1	【授業単元】 デッサン基礎						
2	【到達目標】 ・静物画を記入するための観察力を身につける						
3	・iPadデバイスを使用した道具の使い方を理解する						
4	・構図の種類を理解する						
5	【授業単元】 デッサン応用						
6	【到達目標】 ・空間の構成						
7	・遠近法について						
8	・フェイスチャート、イラストの描き方(電子、紙)基礎を習得						
9	【授業単元】 トレンドヘアの歴史と現在						
10	【到達目標】 ・時代ごとに変遷してきたトレンドヘアについての学びを深める						
11	・現代のトレンドヘアについて、雑誌等を通して学ぶ						
12	・トレンドヘアについて、調べ学習を行う						
13	・デッサンの学びを基に、トレンドヘアをコンセプトシートに落とし込む						
14	・トレンドヘアの1つを相モデルで実践してみる						
15	・フェイスチャート、イラストの描き方(電子、紙)応用を習得						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	業界研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	必修 選択	必修	年次	1・2	担当教員	今井 及川 吉田
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	75 (5)	開講区分	通年
						曜日・時間	集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現場のヘアメイクの方からやりがいやトレンド、仕事の内容を伺い、将来の仕事のイメージをつける							
【授業を通じての到達目標】							
自身が将来進みたい分野の仕事のイメージをつけることができる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
資料・教材は毎授業時に配布				授業によって自宅課題あり			
回	授業概要						テスト配点
1	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(事務所)						
2	【到達目標】 事務所で働くヘアメイクのイメージをつけることができる 仕事のやりがいなど、学んだことを言語化して振り返ることができる						
3	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(スチール・広告)						
4	【到達目標】 スチールや広告等静止画で活躍するヘアメイクの仕事のイメージをつけることができる 仕事のやりがいなど、言語化して振り返ることができる						
5	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(映像系)						
6	【到達目標】 映画・ドラマ・CMなどの映像系で活躍するヘアメイクの仕事のイメージをつけることができる 仕事内容などを言語化して振り返ることができる						
7	【授業単元】中間テスト ヘアメイク業種・仕事内容・分野・働き方の振り返り						
8	【到達目標】 今まで学んだ内容を振り返り、やりがいなどをプレゼンテーションすることができる						
9	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(ブライダル)						
10	【到達目標】 ブライダルヘアメイクで働くことのイメージをつけることができる 仕事の内容などを振り返り、言語化することができる						
11	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(フォトスタジオ)						
12	【到達目標】 スチール現場実習時のカメラ前アシスタントの動きや流れを理解出来る フォトスタジオで働くヘアメイクの仕事を理解する 仕事を振り返り、言語化することができる						
13	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(サロン)						
14	【到達目標】 美容サロンで働くヘアメイクの仕事イメージすることができる 仕事を振り返り、言語化することができる						
15	【授業単元】定期試験 振り返り						
	【到達目標】ヘアメイクの仕事をつとまる視点で判断し、自分にあった職種をイメージすることができる						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	国際教育	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	今井・吉田・及川
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
海外のヘアメイク技術を知り、知見を広げる							
【授業を通じての到達目標】							
海外で活躍するヘアメイクアーティストの実演を通して、ヘアメイクの幅を広げる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業時に配布							
回	授業概要						テスト配点
1	【授業単元】 海外のヘアメイク事情						
2	【到達目標】 ・日本と海外のヘアメイクの違いについて調べ、学習や発表を通して理解を深める ・海外研修プログラムの概要を理解する						
3							
4							
5	【授業単元】 海外研修を理解する						
6	【到達目標】 ・ヘアメイク科で毎年行っている海外研修の内容を理解し、イメージを広げる ・昨年参加した先輩から話を聞き、学びを深める ・研修先の施設を調べ、どのようなプログラムが行われたのかを理解する						
7							
8							
9	【授業単元】 海外研修先のヘアメイクアーティストの技術実演①						
10	【到達目標】 ・海外研修先のロサンゼルスで活躍するヘアメイクアーティストの技術を見学し、視野を広げる ・海外で働くヘアメイクアーティストの価値観を理解する ・日本との違いを学ぶ						
11							
12							
13	【授業単元】 海外研修先のヘアメイクアーティストの技術実演②						
14	【到達目標】 ・ロンドン、フランスで活躍するヘアメイクアーティストの技術を見学し、視野を広げる ・国ごとの考えの違いや、顧客の違いを理解する ・海外で働くヘアメイクアーティストの価値観を理解する ・海外での学びの重要性を理解する						
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	相互支援演習 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今井 及川 吉田
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
クラスの相互支援関係を構築する							
【授業を通じての到達目標】							
クラスメイトと自然にコミュニケーションが図れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業時に配布							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	【授業単元】 コミュニケーション技法①						
2	【到達目標】 ・グループワークの方法を学ぶ ・コミュニケーションゲームを通して相互理解を深める ・自己紹介を通して自己開示を進める						
3							
4							
5	【授業単元】 コミュニケーション技法②						
6	【到達目標】 ・ヘアメイクの調べ学習と発表を通じて、プレゼンテーション力を上げる ・異質なものを認めることができる ・自分自身を理解することができる						
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	総合演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今井 及川 吉田
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
2年生の学内コンテストを見学し、自身の1年後を具体的に想起させる							
【授業を通じての到達目標】							
コース選択後の自分と照らし合わせることで学習に対するモチベーションを高める							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授業概要						テスト配点
1	【授業単元】オリエンテーション 【到達目標】コンテスト見学の目的を理解する、本日の競技内容の説明						
2	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する						
3	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する、表彰式を見学し達成感について考える						
4	【授業単元】コンテスト見学の振り返り 【到達目標】2年生のコンテストを見学し感じた事を書き出すことにより客観的に自分の考えを理解する						
5	【授業単元】オリエンテーション 【到達目標】本日の競技内容の説明						
6	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する						
7	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する、表彰式を見学し達成感について考える						
8	【授業単元】コンテスト見学の振り返り 【到達目標】2年生のコンテストを見学し感じた事を書き出すことにより客観的に自分の考えを理解する						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			